

ケニアと日本の生態系保全

合同国際シンポジウム

七月二三日（水）、JICA・四国森林管理局合同国際シンポジウム「ケニアと日本における公有林の生態系保全」をテーマに局二階大会議室で開催しました。（写真）

シンポジウムは、森林総合研究所林木育種センター、JICA、ケニア森林研究所、ケニア森林公社から一〇名、局署等、高校大学のケニア留学生を含め、合わせて四〇名ほどの参加者とともに進めました。ケニアは、人口およそ四百万人、国土の約八割が乾燥地、森林面積は、国土の約六、一％です。

このような中、「ケニアにおけるメリア（セندان属）の育種に対する協力」が報告されました。



後半、ケニア・日本から、それぞれ直

面した課題（獣害等）などに質問が多数寄せられ有意義なシンポジウムになりました。今回、得られた課題等を今後の業務に活かしていきます。

局・センダン DEBUT 国際シンポジウムで



会場に展示

7月13日に開催した「合同国際シンポジウム」（上記）会場内（大会議室）において、局で育苗中の「センダン」がデビューしました。

当日のテーマに合わせたもので、休憩時間に、木村業務管

理官からの通訳（写真）により、ケニアの方々、日本のセンダンの特徴などについて紹介しました。国際舞台に立った局の「センダン」、これから先を如何に。

編集後記

8月・時候のあいさつ「残暑の候」とか。熱中症の予防は、まず、脱水を防ぎ、小まめな水分補給で。残暑を上手く乗り切ろう。

知っ得 豆知識

「クロモジ」って



クロモジ（写真）は、皮を残して、先の方を穂のように砕いて穂楊子として使ったので、黒木の楊子の意味で、黒楊子と称した。

穂楊子は、今の歯ブラシのように使ったものであるが、後には歯の間に挟まったものをせせるための妻楊子に。

昔、宮中などに仕える女房たちの間では、衣食住に関する一般社会に用いられる用語、特に、直接その名を口にすることがはばかれるような言葉に、その語の一部にもじを付け加えて用いたもの。文字詞（もじことば）、又は、女房詞。

例えば、すもじ（鮎）、しゃもじ（杓子）、ゆもじ（湯巻）など。

黒楊子も歯を掃除するためのものであるから、女房たちがずばりその名をもって呼ぶことは当然忌まれ、黒楊子のクロにモジを付して、クロモジと称し、このクロモジがそのまま木の名前になったものであろう。

（木の名の由来 深津 正 小林義男 共著）